

貞觀三年歲次辛巳春三月十四日戊子行大會事○中

一僧供導師一人料○中 昆布二卷

〔權中納言定頼卿集〕あまうへの御もとよりひろめといふ物たてまつり給けりつゝ、みがみにか

きつけて、をきたまひける○歌

〔庭訓往來〕被仰下之旨畏拜見仕候畢○中 宇賀昆布

〔毛吹草三〕出羽 昆布

〔雍州府志土產〕昆布 出羽國松前宇賀出者其狀細薄其色黃赤其味甘而帶微酸又若狹召昆布爲

宜倭俗高貴之所食是謂召上其味美而堪高貴之所食故謂召昆布今悉在京極西竹屋町

〔寛政四年武鑑〕松平豊後守齊宣○薩摩 時獻上 二月 昆布 宗對馬守義功○對島 時獻上 二

月 昆布

松前志摩守道廣○蝦夷 時獻上 昆布

〔採藥使記上〕照任曰奥州田奈富松津川ニ昆布ヲ産ス、大キナルモノ三五丈幅ハ三四尺アリ、土

入屋ヲ葺テ暑雨ヲ除ク、

〔見た京物語〕昆布をみづからと呼びて、ことの外に用ゆ芝居にても饅頭や水辛みづからと賣る、

〔庖厨備用倭名本草四菜〕昆布○中 元升○向 井 曰 洛下ニ一人昆布ヲ生ニテ過食シタル者アリ、夜

ニ入テ此ノ昆布ウルホヒフクレテ、胸腹脹痛ス、甚シキ時ハ、胸中ニセメ上リ悶絶セントス、半時

ガホ下身ヲ休ルコトアタハズ、薑湯ニテ錦袋子ヲ多ク用テ嘔吐ス、吐タルモノハ皆昆布ニテ痰

ト俱ニ出タリ吐ツクシテ則安眠セリ、昆布生ニテ多食スベカラズ、

〔重修本草綱目啓蒙十六〕海帶。ホソメ南部 ミヅメ仙臺 ミヅワカメ生 ボンメ乾、同上、一

名多士麻方村家

海帶